

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000019		
法人名	医療法人柳川滋恵会		
事業所名	グループホーム春		
所在地	福岡県柳川市西浜武1085-1 (電話) 0944-72-2211		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 6 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平屋建ての今年で14年目を迎える2ユニットのGHです。全室畳部屋で木製ベット、ギャッジベット、マットレスと御利用者様に合わせて、家庭的な雰囲気与生活を送って頂くよう支援に努めてます。法人内には、医療機関、介護老人保健施設があり、医療面、防災面で連携して、安心安全な環境を作り、園児や小学生、運営推進会議、ボランティア、季節行事などを通じて地域との交流をさせて頂き、地域の皆様と共に支え合う、楽しめる時間作り、開かれたグループホームに努めてます。最期までその人らしく生活が出来ますよう、支援にあたらせていただきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周囲には住宅、ガソリンスタンド、コンビニ、ファミリーレストランなどがある。敷地内には同法人の病院、介護老人保健施設があり、防災・医療面での支援、地域との交流を連携して行っている。医療機関とは特に日常的な支援や緊急時の対応が充実して行われているため、安心できる環境がある。事業所は平屋建てで、左右に各ユニットがあり、全室が畳敷、窓には障子があり、落ち着いた家庭的な雰囲気がある。職員は2ユニットでお互いにカバーしあいながら、協力して日々の支援にあたっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースのホールに掲示している。住み慣れた地域で暮らして頂くことを基本理念として、毎朝職員で唱和し実践出来るように取り組んでいる	事業所独自の理念があり、朝礼時に職員は唱和をして、利用者の気持ちを忘れず、家族のような立場で、しかし馴れ馴れしくならないような関係を作り、笑顔で対応をすることを心がけている。昨年、地域とのかかわりを充実させるため、地域支援ネットワークの立ち上げをしたところである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・小学生の慰問やボランティアさんの受け入れ・事業所行事・運動会や敬老会に行政区長や老人会長・民生委員を来賓に招き地域との交流に努めている	同法人の介護老人保健施設で行われている地域交流の行事に参加し、地域の方との交流を持っている。事業所独自の運動会、敬老会開催時に地域住民へ声かけを行うようにしている。地域の方のお話ボランティアや、近隣の保育園、小学校の慰問の受け入れも行い、交流を図っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献は行えていない認知症サポート講座を受講した小学生を招き、実際にご利用様と触れ合っていただくことで、認知症への理解を深めてもらい、グループホームの特徴を伝えていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議構成員は10名である。利用状況・活動・運営・行事等の状況を報告して、質問・意見をいただきサービス向上に努めている	運営推進会議を2か月に1回開催し、外部評価結果の報告・KY活動（危険予知活動）・入所状況報告・勉強会などを行っている。家族からの意見で「薬の変更時は機能等の説明を行う」ようにしたことなど、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政参加してもらい、運営上の留意点やサービス提供等、相談行い指導意見をいただいている	市町村とは、電話相談や窓口へ行き、更新書類の提出、入居状況に変化があった時など相談報告を行っている。窓口から資料をもらってくることもある。地域支援ネットワークにも包括支援センターが参加しており、行政との協力関係を築くように取り組んでいる	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の悪影響など施設内で勉強会を開催して理解を深めるように努めている玄関は施錠せずにセンサーを設置し、見守りの徹底と安全確保に努めている	日中、玄関居室に施錠はされていない。玄関にはセンサーを設置している。外出傾向のある利用者の行動傾向を把握し、見守り付き添いを行っている。職員は外部研修に参加をして伝達研修を行っている。毎月、身体拘束等に関するチェック表を利用して拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の資料を用いて勉強会を開催したり、事例を上げて検討行い、言葉の虐待については自覚を持ちお互いに注意し合って防止に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の資料を用いて勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。現在、成年後見人制度利用者様は1名おられる	日常生活支援事業、成年後見制度など権利擁護に関する外部研修を受けて伝達研修を行い、職員全員が学ぶ機会があり、制度の理解に努めている。制度について、家族に、特に説明を行っていない。	研修で学んだ知識を、必要に応じ活用できるように、利用者・家族等へ制度に関する説明を行って欲しい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時や料金改定の際は、内容を十分に説明行いご理解を得て同意をいただいている。信頼関係の構築に努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺い検討行い運営を図っている。又ご家族には状態報告を行うと共に意見・要望を聞いて、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している	利用者には日常生活の中で意見等を聴き取るようにしている。自身の困り事を話しに来てくれることもある。運営推進会議や、家族会の開催、来園時に家族から話を聞くようにしている。家族からの意見で、職員の名前が一致するように、写真を貼り出すなど運営に反映をさせている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミニカンファにて、その都度意見や問題提起を行い、検討行い業務に反映出来るように努めている	管理者は、毎日の休み時間に職員と話をする機会を作っている。業務に関するアンケートをとる事や、申し送り時に出た意見は、まとめて実施をするなど、職員の自主性を尊重して、運営に反映をさせている。異動はあまりなく2ユニット間での交流もあり、利用者の行き来もあっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時に事務長により個人面談を行われてある、思いや意見を聞くことで職員の精神安定を図られてある。各自、健康管理を行ない、向上心を持ち職務することがサービスの最もたるものである		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	福祉や社会貢献に対する思いを重視して平等に実施されている。適切に評価を行い社会参加・自己実現を図れるような機会作りに努めていきたい	性別、年齢などを理由に採用対象から外すことはない。入職時には、新人教育があり、体調不良時などシフトの調整を行っている。資格取得のための研修に参加ができることや、定年後の再雇用もあり、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の資料を用いて勉強会を開き、介護業務における基本として職員全員が自分のこととして、ご利用者様に対して高い意識を持ち接するよう努めている	外部研修に参加をして、伝達研修を行っている。毎月実施する身体拘束等のチェック表に、人権に関する内容もからめてチェックを行い、職員への啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り外部研修に参加するよう努めている、サービス向上や各自の力量向上に努めていきたい		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は出来ていない。情報収集など訪問や交流を図って行きたい		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面会を行い話をし、不安がないように良好な関係づくりに努めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に、意向確認する機会を持ちご家族との良好な関係づくりに努めている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人様・ご家族様の意向を確認してニーズを見極めて適切な対応・ケアが出来るように努めている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来ることは行っていただくよう見極めて、共に支え合える関係作りに努めている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の情報はご家族に伝えて、ご家族と一緒に支え合う関係作りに努めている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人様に気軽に遠慮なく面会出来る環境整備に努めている	利用者の馴染みの人、場については、利用者、家族から聞き取りを行っている。友人との関係が継続できるように、訪問はいつでも受け入れ、電話の取次ぎ等を行っている。以前住んでいたところへみんなでドライブへ出かけたこともある。利用者にとって馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りにくいご利用者様は職員が交流の機会を持ったり、間に入り行い孤立感が感じることがないように支援を行っている、又、自室での経過が多くなるご利用者様は訪室を多くし、状態に応じてホールに誘導行い関わりが保てるよう支援を行っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方全員ではないが、ご家族様に運動会・敬老会の案内を送付し参加していただくご家族様もおられる。今後は継続して関わりが持てるように努めていきたい		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	相談出来る環境整備を作り、希望や思いを把握して、意向確認が困難なご利用者様は状態把握に努めて、出来る限りご本人様の思いに添った生活支援に努めている	入居時に本人の生活歴や価値観等を把握している。また、日々の関わりの中で、心身状態の現状の把握に努め、本人のケアに活かす取り組みを行っている。意思疎通が困難になられても表情などから汲み取り、本人の視点に立って、関係者で話し合っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話の中から、これまでの暮らしぶりの情報等を得て、サービス支援に役立てている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一般的な状態を把握して、今の心身状態を観察行い現状把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員より状態を収集して、ニーズに合った具体的な介護計画作成に努めている	利用者、家族の意見や、担当職員、関係者の意見を反映して、ケアプランを作成している。容態変化時には、その都度、見直しを行い、家族に報告し、承諾してもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録が実践出来ていない。カンファレンス等で職員の気づきの共有に努めていきたい		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医受診にご家族様と一緒に付き添っている。急な受診は職員のみで付き添いニーズに合った対応が出来るように努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブや保育園・小学校との交流を行い、地域との繋がりを大切にして、ボランティアの受け入れも積極的に行っていきたい		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様で専門医受診が難しい場合は職員が同行し支援している。公用車での送迎等、状況に応じて対応行っている	かかりつけ医への受診を支援している。専門医の受診は家族が付き添っている。また、職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。往診や受診の際の情報は、家族と話し合い共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関より22時・5時の巡視時と変化時は随時状態報告を行っている。いつでも連絡が取れる体制を取り、助言や指示を得ている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供やご家族様との話し合いを持ち、入院生活支援を行い、安心して治療出来るように努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内の医療機関の医師に、早い段階で変化時の度に説明行って頂き、ご本人様・ご家族様の意向を共有して、医師の指示のもと支援に取り組んでいる	利用開始時に家族に説明を行い、意向を確認している。状況の変化に応じて、利用者・家族の思いを大切にして、介護職・看護師・主治医が連携している。容態変化時には、家族とその都度話し合い、意思確認を行い、合意を図り、全員で方針を共有し、対応し得る最善の支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間のレベルに幅があり、学ぶ機会を作りレベル向上を図っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定と昼間想定で年に2回避難訓練を行っている。法人内施設・医療機関との連携、協力を得て地震・水害等の災害にも対応出来るよう取り組んでいきたい	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。平成24年の水害の教訓を活かし、非常用食料・飲料水は備蓄している。訓練後は消防署員や参加メンバーで意見交換を行い、次の訓練に活かすように取り組んでいる。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を開き接遇や個人情報について学ぶ機会を作っている。ご利用者様を尊重しない声かけや対応には、その都度指導を行い改善に努めている	職員は勉強会に参加し、意識向上を図っている。食堂・リビングには、事業所の理念を掲げ、利用者を尊重し、プライバシーに配慮し、親しい間柄でも、利用者への声掛けは敬語、人生の先輩として敬う姿勢・対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思に添えるような支援に努めている。又意思表示が乏しいご利用者様には、日々の状態を把握して変化に注意して支援行っている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも掲げている通り「その人らしく」個々の希望に添い、生活が出来るように支援に努めている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理美容に来てあり、希望を聞いてカット・顔そりを利用して頂いている。又整容に援助が必要なご利用者様は、身だしなみに留意し清潔感があるように心かけている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	正月や敬老会の行事食や旬の食材を使った献立等を提供している。ご利用者様の機能レベルにより、一緒に準備等行うことは困難である。食事摂取は職員と一緒にコミュニケーションを図りながら摂取して頂いている	利用者と職員が同じテーブルで、一緒に家庭的な雰囲気です食事をしている。また、四季折々の行事食や誕生日会・お茶会を利用者と一緒に関し、利用者の楽しみになっている。利用者の状態に応じ、刻み食・ソフト食・トロミ食を提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は記録を残して必要な栄養・水分が確保出来るように努めている、特に水分量はチェックをしてイオンサポートゼリーを提供したりして管理行っている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	おひとり、おひとりに声かけ行い居室洗面台で個々に合ったケアに努めている。定期的に歯科医師によるチェックを受けてあるご利用者様もおられ、職員も毎月指導を受けて清潔保持に取り組んでいる。義歯は週2回除菌洗浄剤を使用している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に時間を記入して間隔や頻度を確認して、失禁等の軽減を図りトイレの声かけを行い、排泄機能維持に努めている	排泄チェック表を作成し、利用者が気持ちよくトイレでの排泄が出来るよう支援している。職員は、利用者の羞恥心や不安な思いに配慮し、対応している。また、紙パンツから布パンツになられ、気分が明るくなられた事例がある。パット類の使用は、昼・夜の状況にあわせ、関係者で検討し使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	12月よりおやつに牛乳提供になり、以前より頓服・坐薬でのコントロールが減ったご利用者様もおられる。排便困難のご利用者様は医師の指示のもとコントロール行い健康管理に努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本入浴日は決めているが、体調不良等で入浴中止時は曜日・時間を変更したり、入浴拒否が見られるご利用者様は毎日声かけ行い無理なく入浴していただくように支援行っている、又季節行事として「しょうぶ湯」「ゆず湯」等季節を感じ楽しんでいただくように支援行っている	週2回の大まかな入浴設定はあるが、利用者の希望に合わせ柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者には、無理強いせず、職員が臨機応変に本人が気持ちよく入浴を楽しめるように支援を行っている。入浴剤やゆず湯など季節感のある入浴を満喫してもらっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度に運動や活動を取り入れて、生活リズムをつけて、夜間はゆっくりと休んでいただくよう努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は個々のファイルに薬剤情報を綴っている、又状態変化にての臨時薬は看介護記録ファイルの別紙に随時記入して把握出来るようにし、ご利用者様の症状や変化に留意している		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のレベルにより、能力に応じた役割を持っていただくことは出来ていないレクリエーションや会話等の機会を作り、楽しみ作り、身体機能に合わせて運動等を取り入れて気分転換が図れるよう支援を行っている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるように、天候・気温に配慮してドライブ・散歩の計画を立てて外出支援を行っている。車中で「柳川駅を見たい」「高畑公園に行きたい」と希望があれば延長し喜んでいただいている	担当者が年間行事計画を作成し、法人の車両で四季折々の花見やドライブに出掛けている。病院受診の時に、家族の協力を得て、ご自宅・縁者宅や外食などに出掛けている。日々のお地藏さん参りは、利用者の良い散歩コースになっている。また、地域の方との交流の場になっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に金銭を所持「されてあるご利用者様はおられない、物品購入の希望時は家族に相談して職員が購入したり、家族に依頼している		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されてあるご利用者様もおられる。要望があれば電話を取り次いだりハガキの投函等の支援を行っている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるホールに、季節を感じることが出来る掲示物や午前中は太陽光や室温に配慮して居場所を変えたりしている、又物音や職員の大きな声等で不快感を感じることがないように留意している	食堂・リビングは車いすの移動や利用者間の関係性などに配慮して、テーブルと席を設置している。共有空間は、次亜塩素剤使用の加湿器・高性能空気清浄器を設置し、室温調整に努めている。明るさも適切で、季節の花や、手作りの干支の飾り物で季節感を醸し出し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事摂取の席は関係性に考慮して配置しているが、おやつ時等のご利用者様の状況に合わせて会話やテレビ視聴等、思い思いにゆっくり過ごしていただいている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジオや音楽鑑賞、写真等を置いたりして安全に居心地良く過ごしていただくよう配慮している。リスク回避から工夫不足の居室もある。	居室入口には表札がかかっており、和室には大切な家族の写真を飾り、手作りの小物や馴染みの家具（テーブル・いす・筆筒）や使い慣れた寝具が持ち込まれ、仏壇や信仰の御歌を掲げている。ご自宅でのこれまでの暮らしが継続でき、安心して過ごせるように工夫している。また、各室に温湿度計を設置し、室温を管理している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は全室たたみ部屋となっている、入り口には表札を掛け、トイレ・浴室も標記して場所理解が出来るようにしている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で職員と利用者が支え合いその人らしく楽しく暮らせるように家族の心で支えていきます。との理念を共有する為に毎朝唱和し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	頻度に交流する機会は少ないが、近隣の小学生の体験学習や保育園慰問、地域のボランティア支援等地域との繋がりを継続している。時折地域の寄り合いの場でもある公民館主催のサロンに参加し交流を重ねている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間行事は認知症の人の理解や支援方法をみて頂く機会と捉えている。利用者の生活ぶりや行動に対する支援の方法を見てもらい又一生に参加してアピールをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回活動状況や取り組み、実際等様々な報告をしている。話し合いを行い貴重な意見を頂いている。それらの意見をサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加してもらい、事業所の実態や現場の実情等を伝え又相談や課題解決に向けて協力してもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止に向けた取り組みチェック表に基づいて具体的な行動を一つ一つ確認している。全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の権利擁護推進委員会の話し合いに参加したり外部での研修等職員が学ぶ機会を多くし虐待防止の徹底を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に取り入れ内部研修として資料を作成し制度の理解を深めている。以前成年後見制度を利用されていた方がおられ活用の必要性を感じている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い理解を得ている。不安や疑問、心配毎等いつも柔軟な対応が出来るように声かけしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問される際はその都度利用者様の近況を報告し意見や要望を伺っている。意見箱を玄関に設けて誰もが投函できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日短時間だが職員全員で休憩を取る事で意見や提案を聞きやすい場としている。利用者サービスや業務改善等はカンファレンス等で検討し運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の日頃の努力や実績に感謝されている。職員に意見等把握され働きやすい環境整備や全体整備に努力されている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用については法人幹部で面接を決定しているが、管理者も面接に立ち会い意見を取り入れてもらっている本人の仕事に対するR熱意や、人柄を重視し意欲を持って働けるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	虐待や拘束は毎月チェック項目を通して職員一人一人に自覚と認識の徹底を図っている。外部の研修にもできるだけ参加し学ぶ機会を多くしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせて法人内外の研修に受講している。自分で希望されえる職員もあり勤務状況等勘案しながら希望に沿うようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年専門職地域支援ネットワークの立ち上げで同業者との交流の機会も増えている。地域支援を通して同業者との交流や連携を深め事業所としても成長を図りたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人に面会し身体状況や意向の確認をしている。本人の理解度に合わせて安心されるようにお話をさせて頂いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を交わす段階で本人や家族の思い、意向を十分に受け止め相互に相談をしながら信頼関係を築けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初は環境の変化の対応に配慮し本人や家族が安心できるように努めている。早い段階で必要とする支援を判断している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に過ごす中で理解を深め楽しい時間を共有している。共に支え合いながら信頼関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事である敬老会や運動会にご案内し家族も競技等と一緒に参加してもらい楽しい時間を過ごしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟親戚等の面会は多いが友人や近所の方の訪問はあまりない。必要時は家族も心良く応じて頂いている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに話しかける場面は少ないので利用者同士の関係性を把握し相互に支え合いながら孤立する事なく目くばり、気配りして会話のかけ橋となっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相互支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の段階で心身の状況や生活歴を利用者家族から聞き取り、職員全員で情報を共有し意向の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく生活できるように利用者個々の生活歴や暮らしぶり等の把握に努め、有する力を発揮しながらホームで本人らしく楽しく過ごせるように支援している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で心身状況の観察や健康管理を行い、早期発見、早期治療に努めている。本人の出来る力や分かる力を把握しカンファレンスで情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の課題やケアの在り方については毎日のカンファで検討している。日々接している中で利用者様の思いをくみ取り家族や職員の意見、要望等を反映し介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日身体状況や健康面等日々の関わりの中での気づきや変化等を個別に看介護記録に記録している。毎日の申し送りやミニカンファで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々「かかりつけ医や他科受診、入院時の支援等事業所で出来る範囲でサービスの支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折ではあが近隣の保育園児の慰問で歌や踊りを披露してもらったり、小学生の学習体験を通してのボランティア支援等で交流を図っている。又防災訓練では消防署の協力を得て利用者にも参加してもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は利用契約時に十分な説明を受けかかりつけ医を決定されている。他科受診の際は家族の意向を聞き送迎や受診の支援をしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が毎日内服管理、処置点滴等で訪問している。緊急時はもちろんその時々で異常や気づき等都度看護師又かかりつけ医に伝達し医療支援に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は病院内関係者と密に情報交換を行い又主治医や事業所からも十分な説明を行い家族や本人に不安がないように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り等終末期の在り方については研修を勉強会に取り入れている。重度化された利用者様には主治医や事業所の支援について段階ごとに説明し家族の意向を確認しながら医療、介護と連携図り支援を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備えてマニュアルを作成し勉強会は行っているが実践力は不十分である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(昼・夜間想定)利用者参加のもと避難訓練を行っている。法人内や消防署への連絡体制は築いているが地域からの参加はない。近隣での避難訓練参加をお願いをしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の対応はプライバシーの確保を徹底している。言葉掛けや態度等配慮に欠ける時はその都度職員に指導を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示や自己決定が困難な方も多く毎日接する中で見守り、表情や行動を観察し働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課はあるが一人一人の希望やペースに合わせて支援をしている。業務の都合やスケジュール優先にならないように振り返りながら取り組んでいる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解のある利用者様は自分で服を選び着用されるが希望の表出が出来ない方は季節や心地よさ、その人らしい髪形や服装等身だしなみやおしゃれを個別に支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やかたづけは困難で一緒に作業は行っていないが、食事は職員と利用者様とテーブルを囲み食事を味わっている。楽しいひと時を過ごしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。利用者様にも好評である。栄養の偏りや水分不足にならないように摂取量を把握するため毎日チェックしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施している。磨き残しのある方や拒否のある方は介助し、口腔内の清潔保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し個々の排泄リズムを把握し定期的にトイレ声かけ、誘導やおムツ交換を行い失禁の軽減に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューやおやつ等に食物繊維や乳製品を取り入れている。便秘傾向のある方は腹部マッサージや日課に運動を働きかけたり、又Dr指示のもと内服コントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴のローテーションを決め週2回の入浴を実施している。体調不良や拒否のある方は翌日に変更したり、清拭やシャワー浴等個々の状態に合わせて支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が食後は居室で休息されているがホールでTV視聴や新聞を見たりと様々である。その人にあった休息の時間を過ごせるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は毎回担当者が行っているが個人用のファイルに薬の説明書はさみ内容を確認できるようにしている。歩人の状態経過や変化は記録に整備し回診時にDrに報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や歌が好きの方にはカラオケを促し洗濯物をたたむ等の簡単なお手伝いを本人の負担にならないように声かけし達成感や満足感を見守りしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は法人内での散歩を支援している。年間行事でドライブの計画は予定しているが日常的に個別での外出支援は十分でない。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や持ち物に関しては多くの方が被害妄想があり、困難な部分がある。金銭の預かりはしていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおられる。希望があれば、速やかに対応している。手紙やはがきは本人に手渡しプライバシーの保護に努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が過ごす事が多い大ホールや水周りは常に清潔を心がけている。安全に移動をするために移動空間を整備確保している。こまめに空調を調整、窓に遮光カーテンを使用し利用者に不快感を与えないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大ホールでは相撲観戦されたり、編み物や新聞を熱心に読まれたり、小ホールでは窓のそばで日光浴をされたりと思い思いの時間を過ごして頂いてる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている事を考慮し毛布やタオルケット、クッション等家族が持参されている。又本人の好みのタンスや棚イスを居室に置き居心地よく過ごされている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に応じて居室に手すりを設置し転倒予防に努めている。トイレや浴室は入り口に大きく分かりやすく表示している。又トイレや浴室にも移動がスムーズに出来るように適所に手すりを設けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		